

第3回酒田駅周辺整備調整会議概要録

- 1 日 時 平成29年5月31日（水）午前9時～午前11時30分
- 2 場 所 酒田市役所 3階 第2委員会室
- 3 出席者 委 員：倉田委員、高谷委員、平澤委員、大野委員、阿部委員、
田中委員、菅原委員（欠席なし）
委員以外：株式会社RIA、株式会社図書館総合研究所
- 4 内 容 以下のとおり

（1）ライブラリーセンター関係

- ・ライブラリーセンターに今回求められているものは、市民にとっての新しい居場所を創るという視点であり、作り方として人が主役であるという形が見えてこないといけない。人が主役、市民の居場所というのは、今の図書館の流れとして大事なことである。
- ・書架が効率的に規則正しく並び、かつ大面積であるため、書架によって作られた空間となっており、人々の活動が拘束されている印象がある。
- ・書架をゾーニングの仕切りの中心としていることで、居心地のよいリビングになっていない感じがする。
- ・市民にとって居心地のいい空間や交流する場が、本を介してどのように生まれ、そこに図書館がどのように係わることができるかがポイントでないか。
- ・人の居場所を確保しながら、圧倒的な本の量を開架としてどのように処理するのかは、非常に難しいことである。
- ・本の量を確保しながら書架をもう少し分節し、その中に人々の自由な動線と居場所があるという形を創ることが、人が主役というものにつながるのではないか。
- ・これまで図書館を利用しなかった人でも、たまたま立ち寄って本を読むような工夫が必要である。
- ・最初の事業者提案に縛られ、図書館のプランニングを不自由にしているのではないか。
- ・最初の事業者提案のイメージから離れてという部分で、市民の投票も含めて選ばれた提案であり、そのイメージが残っている中で、計画を変えることはできるだろうか。（基本的なコンセプトの部分が変わらないのであれば、デザインが修正されてもよいのではないか。）
- ・プランを硬くしているのは、吹抜けを含むメイン動線（パサージュ）の位置である。その概

念がないのであれば、適度に小さく分散して穴を開ける方が、人の居場所づくりにより効果的ではないか。

- ・人のメインとなる動線をBDS（図書館セキュリティシステム）の中に入れるのは、空間のあり方を制約しているのではやめた方がいいのではないか。
- ・BDSの中に各施設がある意味としては、カフェなどに図書館内の本を自由に持ち込んで読めるようにするためと思っている。一方でカフェは、外とのつながりを考えると出した方がよいという考えもある。
- ・施設の入口いきなりBDSというのは、使い慣れている人には抵抗ないかもしれないが、初めての人は、入っていいのか不安になるのではないか。
- ・駅から来て、いきなり図書館的などところに入るのはいかがなものか。一度、緩衝ゾーンがあるとよいのではないか。例えば、観光情報センターやカフェを緩衝帯とし、その後にBDSというような工夫でもよいのではないか。
- ・パブリック部分とライブラリーセンターを分ける線が必要なのではないか。
- ・ライブラリーセンターとパブリック部分がセキュリティの問題で壁に完全に仕切られてしまう方がよいのか。多様な機能が混ざりあっているのがよいということではなかったか。
- ・1階全体をリビングのような居場所にするのはどうか。その代わり2階は本を探しやすく、冊数を確保するために高い書架を配置し、間に居場所づくりをするというのはどうか。
- ・企画展示は図書館だけでなく、酒田市で発信したいものを置くようにすることで、よりパブリックなスペースになるのではないか。
- ・図書館機能という面では、今回の提案に現在の図書館職員の意見は反映されているか。（何回も意見交換をしており、できるだけ反映している。意見交換は現在進行形であり、特に事務室など運営面で頂いた指摘については随時修正をしている。）

（2）観光情報センター

- ・ブックカフェは、パブリックスペースに一体化でよいが、観光情報センターの位置は駅側の動きをブロックする位置ではなく、自然とカフェや企画展示に誘導できるという意味で、広場側に持ってくるの方がよいのではないか。
- ・広場側に観光情報センターを配置すると奥になってしまう印象である。（奥ではなく、広場から見ればこの建物にとってのセンターと考えられる。）
- ・観光案内は声が大きくなることもあり、そういう理由からもBDS内はやめた方がよいのではないか。
- ・観光情報センターは、インバウンドも大事であるが、大部分は日本人が駅側から来ること

が予想されるため、最初の入口部分にあった方がよいのではないか。

- ・ 駅から図書館に入ると観光情報センターがあり、地域の歴史情報発信を行うという一体性は大事でないか。
- ・ 図書館の大きな使命として課題解決がある。図書館と観光情報センターと一体になってやれば一番よいのではないか。
- ・ 観光情報センターのカウンターが、この施設全体の総合案内のようになるとイメージしている。

(3) 広場関係

- ・ 芝生広場にできるだけ施設内の活動がにじみ出るような形や、視線的に見る、見られるというような関係性を意識して欲しい。
- ・ 広場については、芝生だけではなく、木を植えて木陰をつくるなど、もっと別な形の広場の検討も必要ではないか。
- ・ 駅から来た人が自然と広場側に行けるような工夫も重要でないか。

(4) 商業店舗関係

- ・ 広場周りの店舗やレストランについては、多様な店が入ることで広場と関係性を持つような工夫をお願いしたい。

(5) その他

- ・ 基本的には広場中心型に考えを変える必要があるのではないか。
- ・ ロビーのスペースが、結節点であるがそれ以上になっていない。面積的に限られた中で、まとまったスペースがあるので、利用のイメージをもっとハッキリさせ、人が集まったりできるスペースにした方がよい。
- ・ 軽くてデザイン的な階段はイメージはよいが、下から覗かれるような不安感がないようにしてもらいたい。

(6) 今後の進め方

- ・ 各委員の指摘内容はそれぞれニュアンスが違うため、いくつか案を作り詰めていく必要がある。
- ・ 調整会議の指摘内容を検討するとなれば施設の外形が変わることもある。また、1階と2階の吹き抜けの位置が変わるなど面積の調整も必要になる。

- ・大きな変更をしないと市民が主役というプランにはならない。
- ・年度内の実施設計の完了時期を変えないで行うためには、どのようなスケジュールにするか事業全体の検討が必要であるが、基本設計の時間としては少し頂きたいところである。
- ・事業として、事業認可のスケジュールと地権者等への対応を含めてトータルの検討をしないといけない。